

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第4号
令和4年7月8日(金)
校長 福沢 俊之
Tel. 03(3831)3787



7月



学校ホームページ
<http://www.taitocity.net/okachimachitaitou-jhs/>

↑更新中

「あいさつ」をきっかけにして

校長 福沢俊之

7月に入り、1学期も残すところ10日あまりとなりました。部活動の夏季区大会・ブロック大会、定期テストがあって、運動会が少し昔のことに思えます。6月はじめの朝礼で体育委員会から、運動会のスローガンとそれに込めた思いを聞いたとき、伝統を大切にしようとする気持ちがあるから今、一生懸命頑張ろうとすることができる。また、今日、一生懸命取り組んだからこそ、それが伝統になっていく、ということ、を、私自身、気づかせてもらいました。

本校の伝統といえば、卒業していった先輩たちも在校生のみなさんも「あいさつ」を挙げてくれます。先日、本校担当のスクールカウンセラーから聞いたエピソードを紹介します。

毎年、入学したばかりの1年生は、スクールカウンセラーとの面接があります。その折、何人かの生徒に「この学校のいいところはどのようなところですか？」と質問したところ、多くの生徒が「先輩が優しいところ」と答えたそうです。「先輩はどうですか？」と聞いたわけではないけれど、このような答えが返ってきた、同じような質問をしても、他の学校では、こうした答えは返ってきませんね、ということでした。そしてさらに、「優しいとは、どういうことですか？」と続けたところ、「声をかけてくれる。」とのこと、「例えば？」と尋ねると、「名前を呼んでくれた。」「教室がわからなかったとき教えてくれた。」、その「声をかけるきっかけ」が「あいさつ」であるということのようです。2年生、3年生のそうした声かけ、「あいさつ」は、入学したばかりの1年生にとって、不安を取り除いてくれたり、楽しく学校に来るきっかけになったりするのではないのでしょうか、と、スクールカウンセラーの方は話してくれました。

本校は、生徒会を中心に、生徒も先生も、「いつでも どこでも 何度でも」をスローガンに、さまざまな場面で「あいさつ」を大切にしてきました。その結果がこのエピソード、まさに伝統が生み出した成果であると思います。

「あいさつをしよう」という目標を掲げている学校はたくさんあります。しかし、なかなか学校として誇れるものにまで高まらなかつたり、形式的なものになってしまったりしていることが多いように感じています。しかし本校が、多くの来校者から「生徒のみなさんが気持ちの良いあいさつをしてくれる」といっていただける背景には、「目を見てあいさつをしよう」ということが多くの生徒に浸透してきているのではないだろうかと思えます。そして、「この学校のいいところは先輩が優しいところ」といっていた1年生は、これを受け継ぎ、きっと優しい先輩になっていくことを期待するとともに、日々の積み重ねが、誇りと伝統になっていく好循環を、これからもみなさんで回していったほしいと思っています。

日本進路指導協会賞の決定

令和4年7月28日(木)第70回進路指導研究協議全国大会開会式において受賞することになりました。開校以来、20年にわたり進路指導・キャリア教育について継続して研究に取り組み、令和2・3年度には台東区研究協力学校・日本進路指導協会研究委託校「各教科・領域を生かしたキャリア教育の新しい展開 ～様々な活動に主体的に取り組む生徒の育成～」において、令和2年度から始まったキャリア・パスポートを活用し、キャリア教育の普及発展に努めた功績を認められました。これも生徒や保護者、卒業生や地域の方々のお力のおかげです。ありがとうございました。これからも本校の教育活動にご理解ご協力お願いいたします。

2・3学年の宿泊行事より

霧ヶ峰移動教室を通して (2-1)

私がこの移動教室で印象深く感じたことは、レクリエーションと朝の集いです。

一つめのレクリエーションでは実行委員を中心に3つのレクをしました。レクの始めの言葉で実行委員の子が台本通りに話せず、言葉がつまってしまった場面がありました。私はどうするんだろうと少し心配になりました。でも、その時、周りのみんなが拍手をし始めました。そして、拍手と同時に「がんばれ!」「大丈夫だよ!」「ゆっくりでも良いよ!」などというあたたかい声が周りに響きました。その後実行委員の子がアドリブで始めの言葉を言い最後はみんなでおー!というかけ声まで出ました。私は拍手が起こったとき、少し涙が出そうになるくらいの感動で胸がいっぱいになりました。その後も実行委員が話そうとした時、周りから「静かに!」などという声かけが多くなりました。その時、私は「これが団体行動の良い所なんだ。」と改めて感じました。

二つめの朝の集いは、3日間朝の7時から体育館に集まり、前日の反省をしたり先生の話の聞いたりしました。最初の朝の集いの時、全クラスの男子が5分前に集合して静かに座っていました。これを見たとき少し焦りを感じました。「早く並ばなくては」とか「静かにしなくては」といった感情が湧いてきました。

2回目の朝の集いは、一日目の反省をし、10分前に体育館に行きました。焦りを感じず落ちついて行動が出来るようになりました。それも一つの成長だと感じます。

この移動教室を通して生活面でも、勉強面でもたくさんのことを学びました。この学びを楽しかった事の「思い出」ではなく、「生かす」に変えてこれからもっと成長していきたいです。

霧ヶ峰移動教室を終えて (2-3)

僕は、今回の霧ヶ峰移動教室でたくさんのことを学びました。

一つめは、「集団行動(協調性)」です。普段と違う環境の中、一人ひとりが周りを見て行動し、他の人達といろいろ協力することが出来ました。

二つめは、「当たり前に出てくることへの感謝」です。正直、これが霧ヶ峰移動教室の中で学んだことの中で一番大きいことだと感じています。その理由は、下駄箱近くの段差で足をけがして、本当であれば行けていたはずのビッグイベントである登山に参加することが出来なかったことからです。いつもだったら当たり前に行けたはずの登山が足のけがのせいで、当たり前なのが当たり前でできなくなってしまいました。出来て当たり前なのが出来なかったのは、初めての出来事でした。この時に僕は「今出来ていることは当たり前ではない」ということに気付かされました。これから、学校でみんなと授業を受けたり、給食を食べたりする当たり前のことにも感謝して大切にしていきたいと思います。

三つめは「挨拶」です。御徒町台東中学校の「挨拶はいつでもどこでも何度でも」が今まではあまり出来ていませんでした。でも霧ヶ峰移動教室の中で、自分から気持ちよく挨拶が出来るようになりました。

四つめは「時間を守る」です。僕は時間にルーズな方で、いつも時間に遅れてしまうか、ぴったりに着くことが多いです。でも、みんなと時間を意識することで、5分前行動ができるようになりました。

いつもと違う環境の中で生活した霧ヶ峰移動教室でたくさんのことを学ぶことができ、僕達のために動いていただいた人達への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

修学旅行について (3-1)

2日目の班行動は、人のやさしさに触れた1日でした。たくさんの人が、豆知識を教えてくれたり、道案内やバスの案内をしてくれたりしました。班員とも仲が深まりました。もちろん寺社仏閣の凄みや、京都の街並みの美しさも感じる事ができて充実した2日目でした。正直、この3日間は大変でした。班長・室長として班をまとめるためにしおりと時間と闘いながら頑張りました。班行動ではスマホのナビを頼りに行動したり行程表を見ながら行動したりと忙しかっただけれど振り返るといい思い出になりました。班員とも仲良くなれたと思います。



修学旅行について (3-2)

この三日間、よりクラスの友達と仲良くなれたと思いました。特に、自分は室長という立場でみんなに指示を出したりしましたが、班員のみんなはしっかりと話を聞いてくれて、すぐに行動に移してくれました。今後の学校生活では、この協調性を生かせるといいなと思いました。また、奈良・京都で、たくさんの歴史的建造物を見れて、そこで班の人たちと感動し合うことができ、よい思い出が作れた最高の修学旅行でした。

